

## 学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	渡辺（青木） 基子 【ライフサイエンス専攻 平成22年度生】	<p>遺伝医学の進歩は、病態解明や治療法の開発に寄与してきた一方で、遺伝病の診断は、スティグマを付与することが指摘されている。胎児を対象とした出生前診断においては、スティグマのある人と親密な関係をもつことでスティグマをもつに至った人のスティグマ、すなわちコーテシー・スティグマが問題となる。</p> <p>本学位論文では、遺伝性疾患をもつ子の親におけるコーテシー・スティグマへの対応を軸に、文献研究により背景を明らかにし（第1章）、出生前診断のひとつである無侵襲的出生前遺伝学的検査（NIPT）を受けたカップルを対象とした調査を行い、スティグマに対する遺伝カウンセリングの効果を検討し（第2章、第3章）、支援のあり方を検討するためにドイツの妊娠葛藤カウンセリングの現地調査を行い本邦との比較検討を行い（第4章）、終章でカップルの心理的要求と意思決定における遺伝カウンセリングの効果を明らかにし、今後の出生前診断の遺伝カウンセリングに対する改善案を提示している。</p> <p>研究の第2章の内容は、筆頭著者として国際誌（Journal of Genetic Counseling）に発表しており、第3章は筆頭著者として国内誌（日本遺伝カウンセリング学会誌）に発表している。また、第4章の現地調査は、2015年度、2017年度お茶の水女子大学学生海外派遣プログラムの助成を受けて実施された。</p> <p>学位論文の審査にあたって、分子生物学、生命情報学、臨床遺伝学、遺伝カウンセリング学に精通した審査委員により構成される審査委員会を設置した。第1回審査委員会（平成29年12月26日）において論文内容は十分であるとされたが、論文構成や書式の一部に対して修正意見が出され、第2回審査委員会（平成30年1月30日）においても追加で修正意見があり、第3回審査委員会（2月19日）で適切な修正がなされた。2018年2月23日に開催された公開発表会では、全ての質問に対して的確な回答がなされた。</p> <p>審査委員会は、本論文は、スティグマという重要な観点から、出生前診断における遺伝カウンセリングについて、その効果の評価、今後に向けた提案を示しており、遺伝医療の実践において重要な研究と考え、かつ学術的にも高いレベルにあることを認め、本論文が博士論文として十分な内容であると評価した。</p> <p>以上のことより、本審査委員会は、本論文をお茶の水女子大学人間文化創成科学研究科の博士（学術）、Ph.D. in Genetic Counselingの学位授与に相応しいと判断した。</p>
論文題目	遺伝性疾患を有する子どもと共に生きること —出生前検査の遺伝カウンセリングがもたらす効果—	
審査委員	（主査） 教授 三宅 秀彦	
	教授 松浦 悦子	
	教授 由良 敬	
	助教 四元 淳子	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（ 可 ・ ⊖ ）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">⊕. 学術ジャーナルへ掲載されている、 もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	
		准教授（東京医科大学医学研究科）沼部 博直

